

# 会社情報・株主メモ (2019年9月30日現在)

## 会社概要

社名(商号)	株式会社 木曽路
設立年月日	1952年9月30日
本社	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
資本金	100億56百万円
従業員数	1,274名
主な事業内容	料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店を営業
東日本本部	東京都港区芝三丁目43番15号 芝信三田ビル4F
西日本本部	大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号 SRビル江坂3F
名古屋工場	愛知県大府市一屋町三丁目36番地

## 株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,913,889株 (うち自己株式 380,492株)
株主数	22,324名

### ■株主優待制度のご案内

毎年3月31日及び9月30日現在の100株以上ご所有の株主の皆様は、右記のように「株主ご優待券」を6月下旬と11月下旬にご送付いたします。

## 役員一覧

代表取締役会長兼社長	吉源之徳
代表取締役副社長	青野康一
取締役	仲沢栄利
取締役	松岡利朗
取締役	大橋浩稔
取締役	内田豊常
社外取締役	松井藤邦
社外取締役	伊藤守和
社外監査役	熊田登与子
社外監査役	平野善得

## IRカレンダー

2019年 7月19日	名証IREキスポ2019 出展
2019年 7月20日	
2019年 7月26日	2020年3月期 第1四半期決算発表
2019年10月31日	2020年3月期 第2四半期決算発表
2019年11月19日	第2四半期決算説明会 (機関投資家・アナリスト向け)
2020年 1月下旬	2020年3月期 第3四半期決算発表
2020年 4月下旬	2020年3月期 決算発表
2020年 5月中旬	決算説明会 (機関投資家・アナリスト向け)
2020年 6月下旬	第71回定時株主総会

100株以上 500株未満	半期	1,600円相当 (年間 3,200円相当)
500株以上1,000株未満	半期	8,000円相当 (年間16,000円相当)
1,000株以上	半期	16,000円相当 (年間32,000円相当)

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月下旬
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理人	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。
公告掲載新聞	日本経済新聞

## お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 「配当金計算書」について  
配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。  
\* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

### ■中間配当決議通知はがきの郵送廃止のお知らせ

中間配当に関するご案内につきましては、これまで「中間配当に関する取締役会決議ご通知」と題した郵便はがきをお送りしてまいりましたが、同はがきの郵送を廃止いたしました。今後は、当社ホームページにてご案内させていただきます。

株式会社木曽路  
〒466-8507  
名古屋市昭和区白金三丁目18番13号  
TEL 052-872-1811 (代)



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



# 第71期 中間株主通信

2019年4月1日～2019年9月30日



株式会社木曽路

証券コード：8160

## お客様からいただいた信頼をもとに顧客指向経営を徹底し、 企業価値を高め社会的責任を担っていきます。

外食企業を取り巻く経営環境は益々厳しさを増しています。少子・高齢化を背景とした人口減少による外食市場規模の縮小や労働力の不足、原材料やエネルギーコストの上昇、環境への配慮と保護、お客様や従業員の安全性確保、高度情報化への対応、自然災害や情報漏洩など様々なリスクへの対応が必要です。また、消費者の食意識が成熟することにより嗜好やニーズの多様化が一層進み、価値指向、健康指向、安全指向は一段と強まっています。

このような環境変化の中で当社は、「よりおいしい料理をお値打ちに真心を込めたサービスで提供し、多くの人々に外食の楽しさを感じていただく」という基本理念を当社の優位性として磨き上げ、新たなフードビジネスモデルの構築に邁進します。そのために当社は、企業倫理・法令遵守の課題に真摯に取り組むのはもちろんのこと、全社を挙げて経営・調理・接客の各分野の能力向上に努め、新商品開発や新事業・新業態への進出、新技術の活用などに不断に挑戦し業績の伸展と企業価値の向上を追求します。また、食の安全性確保や環境保護等の課題に取り組み社会的責任を全うする方針です。

木曽路はここに企業としての存在意義を見出し、未来を拓いていきます。



代表取締役会長兼社長 吉江源之

### 当中間期の経営成績の概況

当第2四半期累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善から景気は緩やかな回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦など海外経済の不確実性の高まりから先行きの不透明感が一層強まっている状況にあります。

外食業界におきましては、人件費や原材料費、物流費の高騰が続く中、多様化する消費者ニーズや根強い節約志向、そして垣根を越えた競争の激化など依然厳しい状況が続いております。

このような経営環境の中で当社は、定期的なTVCMにより季節毎のフェアを告知するとともに、コア商品のブラッシュアップを行いました。

費用面においては、ワークスケジュールの管理と機械化により更なる生産性の向上と、経費管理の徹底に努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、4店舗の新規出店、1店舗の業態転換、4店舗の改装（2店舗改装中）を実施し、当第2四半期会計期間末の店舗数は174店舗（前年同期末比9店舗増加）となりました。

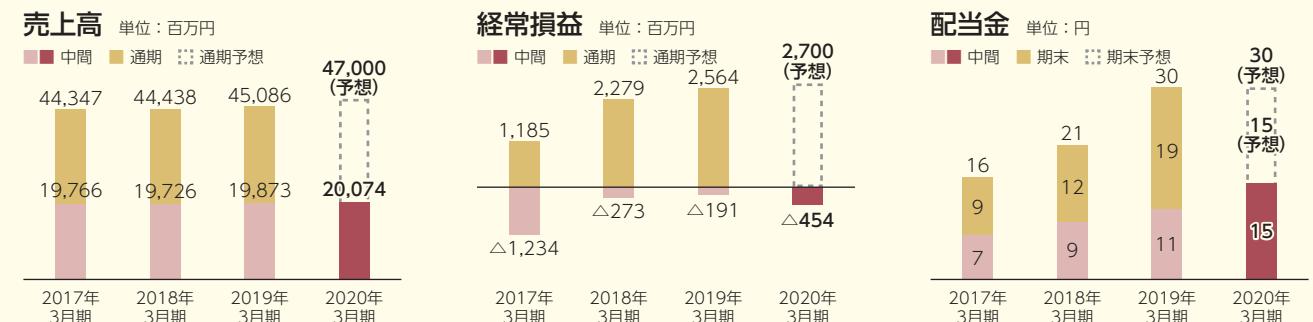
この結果、当第2四半期累計期間の売上高は200億74百万円（前年同期比 1.0%増加）、営業損益は4億76百万円の損失（前年同期実績 1億52百万円の損失）、経常損益は4億54百万円の損失（同 1億91百万円の損失）、四半期純損益は4億26百万円の損失（同 1億32百万円の損失）を計上しました。

### 今後の見通し

通期の見通しにつきましては、雇用・所得環境が改善し緩やかな景気回復基調にある一方で、内外の情勢による不安定な為替や株価動向などから個人消費、企業収益及び海外経済への影響懸念が残り、依然として厳しい経済環境が続くと予想されます。

通期の業績につきましては、売上高は470億円、営業利益は26億50百万円、経常利益は27億円、当期純利益は16億80百万円とする計画であります。

### 財務ハイライト



# 当中間期の主な取り組み・トピックス

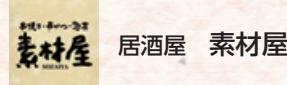


しゃぶしゃぶ・日本料理  
木曾路

## <一品料理イベントを開催>

5月23日～7月10日「北の幸祭り」を実施。7月11日～8月28日「本まぐろと松茸フェア」8月29日～9月30日「黒毛和牛と松茸フェア」と常に一品料理イベントを実施しました。お値打な価格の商品から、木曾路らしい素材にこだわった商品など大変好評をいただき、既存顧客の再来店につながりました。

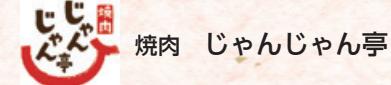
また、各地域にて一品料理を提案しメニュー化を実施しました。各店舗の販売力強化につながりました。



居酒屋 素材屋

## <季節の食材を活かしたメニューが好評>

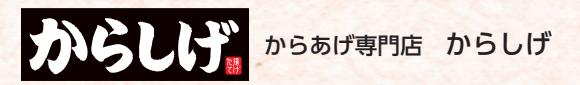
約45日周期で変更する季節メニューは、楽しみにしておられるお客様も多くおり、毎回好評を得ております。社員より宴会・グランド料理のメニュー提案をつのることにより、料理の感性や意識向上を図っております。またWEB販促や店内販促も店舗の意向を映させており、自主性と行動力の向上を培っております。今後も部門一丸となり、お客様のニーズに応えてまいります。



焼肉 じゃんじゃん亭

## <6月24日堀田店をリニューアルオープン！>

堀田店をリニューアルオープンいたしました。明るく広い店内では、メニューも新たにじゃんじゃん亭では初めてのサラダバーを設置するなどいたしました。また、バリアフリーに対応し、広々とした空間でお客様をお出迎えしております。今後もお客様のニーズにお応えできるよう、取り組んでまいります。



からあげ専門店 からしげ

## <8月2日瀬戸店を新規オープン！>

からあげ専門店「からしげ」は6号店の瀬戸店を瀬戸市共栄通にオープンいたしました。瀬戸店はこれまでのロゴを一新し、小さなお子様が見ても一目で「からあげ屋」とわかる看板にしました。からあげの文字と揚げたての匂いにお客様が引き寄せられ、多くのお客様でにぎわっています。

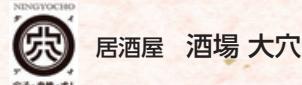


しゃぶしゃぶ・日本料理  
木曾路

## <中部地区、関西地区に木曾路新店オープン！>

7月17日に関西地区に木曾路橿原店を、8月5日に中部地区に木曾路守山店をグランドオープンいたしました。また木曾路守山店においては中部地区で約6年ぶりの新規出店となり全国で121店舗となりました。

木曾路明石店・堺店においては改装工事を行い、エレベータの新設やバリアフリー化を進めました。橿原店、守山店、明石店、堺店ともに売上・客数と好調に推移しております。



居酒屋 酒場 大穴

## <新業態：酒場 大穴 4月4日オープン！>

【穴子・寿司・串焼き】をメインとした「酒場大穴」をオープンいたしました。酒場ならではのカウンターを設置し、お一人様や少人数でのリピーターが増えております。全席禁煙と、クリーンな空間を意識し、女性客や週末でのファミリー層にも好評をいただいております。お客様満足度も上がっており、好調な売上で推移しています。今後の業態転換・出店計画を進めてまいります。



和食しゃぶしゃぶ 鈴のれん

## <様々な季節フェアを開催>

季節の味わいを美味しく楽しんでいただくことをモットーに、まぐろフェアやうなぎ三昧、夏は雪氷、戻りかつおフェアなど旬のメニュー開発に力を入れており、お客様からご好評の声をいただいております。また、定食や一品料理の種類も豊富に取り揃え、今後もますます鈴のれんの強みをいかしたメニュー開発を行い、お客様に支持していただけるお店づくりを進めてまいります。



木曾路グループ

## <5月7日・8日、全店一斉休業を実施しました>

働き方改革の一環として、店舗の一斉休業を実施いたしました。働く環境の改善の一助とし、お客様へのサービス向上につなげてまいります。また、深刻化する人手不足に対して、働く環境の整備により従業員の採用・定着にもつなげてまいります。今後ともお客様満足と従業員満足の向上へ働き方改革を推進してまいります。

# 部門別の概況

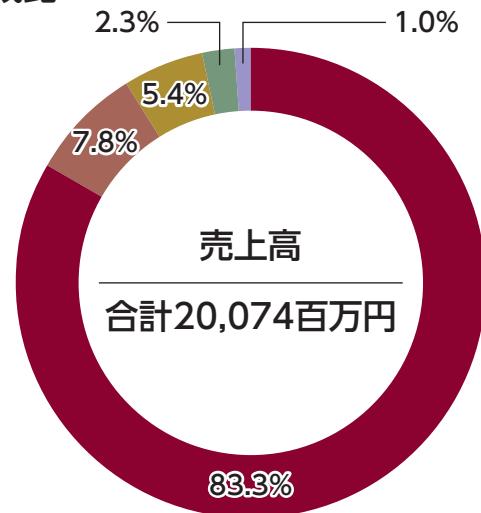
**しあぶる日本料理 木曾路 部門**

2店舗の新規出店により、店舗数は121店舗となりました。TVCMの継続や、新元号に因んだクーポンの配布による客数増に努めるとともに、ハレの日需要へのアプローチを実施しました。

**売上高** 単位：百万円

期間	中間	通期
2019年3月期	16,513	38,068
2020年3月期	16,725	

## <売上高構成比>



**居酒屋部門**

9月1日付で営業力強化、業務効率化、及び人員の最適配置等のため、「素材屋」「とりかく」「ウノ」「ここの」を「居酒屋」部門に統合しました。1店舗を素材屋から新業態「酒場」「大穴」(ダイアナ)への転換を実施し、店舗数は25店舗となりました。

**売上高** 単位：百万円

期間	中間	通期
2019年3月期	1,745	3,538
2020年3月期	1,572	

**じゃんじゃん 亭部門**

サラダバーやデザートバーの設置など新たなコンセプトで1店舗の改装を行います。店舗数は14店舗であります。このほか、スピード提供や先手のサービスなどに努めました。

**売上高** 単位：百万円

期間	中間	通期
2019年3月期	1,122	2,266
2020年3月期	1,087	

**和食 しゃぶしゃぶ 鈴のれん 部門**

店舗の異動はなく、店舗数は7店舗であります。しゃぶしゃぶ祭りの実施や、御膳料理の充実、慶弔などのお集まりをアピールし来店客数の増加に努めました。

**売上高** 単位：百万円

期間	中間	通期
2019年3月期	429	937
2020年3月期	472	

**その他**

その他部門は、からあげ専門店の「からしげ」、天丼の「てんや」、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

**売上高** 単位：百万円

期間	中間	通期
2019年3月期	62	275
2020年3月期	216	

# 財務諸表

## 貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期末 (2019年9月30日)	前期末 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	15,213	17,969
固定資産	22,712	21,475
有形固定資産	13,800	13,193
無形固定資産	280	215
投資その他の資産	8,631	8,067
<b>資産合計</b>	<b>37,926</b>	<b>39,444</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,737	6,398
固定負債	3,353	3,242
<b>負債合計</b>	<b>9,091</b>	<b>9,640</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	28,806	29,718
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,802	10,713
自己株式	△928	△927
評価・換算差額等	28	85
<b>純資産合計</b>	<b>28,834</b>	<b>29,803</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>37,926</b>	<b>39,444</b>

## 損益計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期累計 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	前第2四半期累計 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)
売上高	20,074	19,873
売上原価	6,313	6,305
売上総利益	13,760	13,567
販売費及び一般管理費	14,236	13,719
営業損失 (△)	△476	△152
営業外収益	28	28
営業外費用	6	67
経常損失 (△)	△454	△191
特別利益	20	65
特別損失	17	32
税引前四半期純損失 (△)	△451	△157
法人税等合計	△25	△25
四半期純損失 (△)	△426	△132

## キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	当第2四半期累計 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	前第2四半期累計 (2018年4月1日～ 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△474	△1,069
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,448	△576
財務活動によるキャッシュ・フロー	△597	△385
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,520	△2,031
現金及び現金同等物の期首残高	15,435	15,424
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,914	13,392